

令和6年度 第1回松本市社会福祉審議会児童福祉専門分科会 会議録

日 時	令和6年6月28日（金） 15:00～17:10
会 場	松本市役所大手公民館2階 視聴覚室
出席者	平林会長、海野副会長、青木委員、梅田委員、高津委員、福地委員、一ノ瀬委員、矢野委員、柳田委員、久保田委員（10名）
次 第	<p>1 開会</p> <p>2 部長あいさつ</p> <p>3 正副会長の選出</p> <p>4 議事</p> <p>(1) 報告事項</p> <p>ア 令和5年度各種事業報告について</p> <p>(ア) 新・松本市放課後子ども総合プラン関係事業【資料1】</p> <p>(イ) こんにちは赤ちゃん事業【資料2】</p> <p>(ウ) 幼稚園・保育園等の利用者状況【資料3】</p> <p>(2) 協議事項</p> <p>ア 第3期子ども・子育て支援事業計画の策定について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次期計画の骨子案【資料4】</li> </ul> <p>イ 子育てに関する調査結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各種調査結果と課題の整理【資料5】</li> </ul> <p>5 その他</p> <p>6 閉会</p>
正副会長 選 出	<p>3 正副会長の選出</p> <p>委員改選に伴い、正副会長を選出するもの &lt;事務局案&gt;</p> <p>会 長：平林優子委員（信州大学 医学部保健学科 教授）</p> <p>副会長：海野暁光委員（認定こども園深志 園長）</p> <p>→了承</p>
議 事	<p>4 議事</p> <p>(1) 報告事項</p> <p>ア 令和5年度各種事業報告について</p> <p>(ア) 新・松本市放課後子ども総合プラン関係事業【資料1】</p> <p>資料に基づき、こども育成課から説明。</p> <p>【質疑・意見】</p> <p>&lt;委員&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 明善児童センターが初めて学校敷地内に新設されたが、ふりかえり（評価）はどうか。</li> </ul> <p>→ 寿台児童館と内田児童館を統合し、初めて学校敷地内（明善小学校）に建設した。</p>

好評で、想定以上のお子さんが登録している。新しいということもあるが、学校敷地内で移動がなく安全性の面からの評価もあると思う。今後整備する児童館・児童センターにおいても考慮していきたい。

<委員>

- ・ 放課後の預かり施設の整備については、老朽化する児童館・児童センターとあるが、民営の施設についても同様な扱いとなるよう計画に盛り込んでいただきたい。  
→ 民間の学童の施設についても放課後こどもプランに組み込んでいく必要があると考える。

(イ) こんにちは赤ちゃん事業【資料2】

資料に基づき、こども福祉課から説明。

(ウ) 幼稚園・保育園等の利用者状況【資料3】

資料に基づき、保育課から説明。

(2) 協議事項

ア 第3期子ども・子育て支援事業計画の策定について

- ・ 次期計画の骨子案【資料4】

資料に基づき、事務局（こども育成課）説明。

【質疑・意見】

<委員>

- ・ 基本理念の「すべての子どもにやさしいまち」これは子どもが受給者になっていて、子どもがまんなかになっていないように思う。子ども自身が新しい社会を作り上げていく方法にしなければならないのではないか。

こども政策が1丁目1番地であるならば、人員配置や計画の段階から見直しが必要ではないかと考える。

<委員>

- ・ 基本理念は、松本市こどもの権利に関する条例にも掲げているため、そこからどう捉え直すかが大事なところ。急には変えられないかもしれない。

<委員>

- ・ 基本目標の「育ちあい・支えあい」支えるばかりで、親御さんがやってもらって当たり前という意識が強いように感じている。制度に対して何らかの循環を考えないと、ただ貰うばかりの計画になってしまうのではないか。

3歳未満児で通園させたい方が増えている。今後、3歳未満児の保育料一部無償化や誰でも通園制度への対応が発生するが、保育士のなり手不足が現状。一時預かりもキャンセル待ちで、利用したくても利用できない。クーポンも使えない現実もある。保育士と利用する側の数を見比べて、より良い施策にしていきたい。

<委員>

- ・ 保育士だけが提供するのではなく、参加するのが誰かを考えていくことが大事。誰でも通園制度はそれぞれの自治体で検討していかなければならない。

<事務局>

- ・ 様々のご意見をいただきましたが、第3期計画はお示しの骨子で進めることでよろしいでしょうか。  
→ 了承。(委員)

イ 子育てに関する調査結果について

- ・ 各種調査結果と課題の整理【資料5】  
資料に基づき、事務局（こども育成課）説明。

【質疑・意見】

<委員>

- ・ 基本目標の「質の高い幼児期の学校教育・保育の提供」とあるが、実際は量の問題で質の問題とは違うのでは、と感じた。質を計るのは難しく数値化はなかなかできないのではないか。

課題のまとめで3歳未満児の待機児童が発生しているとあるが、3～5歳児は定員割れしているのというか…。未だに学年毎のクラス編成のため縦割りにすれば3クラスが2クラスになるとか、そこで職員配置を変えたり保育の内容を見直せば今の規模でも待機児童の解消はできるのではないか。

保育士確保については、県だったか社協だったかが、保育士資格保有者に行ったアンケートによると、保育士になりたいと思ったのが中学生の頃で、他の産業より早い時期に目標としていることが見えてきている。中学生や小学生のうちに、小さな子どもに係るような職場体験を実施することで、将来保育士が増えるのではないか。

介護保険のケアマネージャーのように、一人の方に相談すると物事が解決するような、子育て版のケアマネージャーができると、子育てが楽になり、幸せなものになるのではないか。幸せなものとなる取り組みが計画に盛り込めると良い。

<委員>

- ・ フィンランドの「ネウボラ」の様な取り組み。専門家に困ったときは気軽に相談し、保育所では毎日のケアを行う。ネウボラは異動がないので、常に同じ人が対応するのが特徴。

<委員>

- ・ 核家族化が進み、3世代、4世代で生活している人は殆どいない。子育てのノウハウを聞ける状況になく、孤立化した親御さんが多い。なんとか地域で関わり合いができたらいと思う。

<委員>

- ・ 3歳までに就園させたいと思うのは、母親が早くに働きたいと考えるからなのか。家庭だけに閉じ込めるのではなく、早くから他の子どもたちと関わっているいろんなことに触れ合っ欲しいみたいな考えもあるのではないか。

→ アンケートからもフルタイムでの就労は増えてきている現状はある。(事務局)

<事務局>

- ・ 委員の皆さんにお聞きしたい。ゼロイチで集団の中で過ごすことは本当に大事なことなのか、親御さんと一緒にいた方が人間形成や愛着形成が育まれるのではないか。そうは言っても、育児休暇が切れてしまえば働かなければいけない。就園させるのは必要に応じてではないか。3歳までは見たいという家庭も少なからずあるのではないか。

<委員>

- ・ 3歳児神話がどこまで正解かわからないところもあるが、愛着形成の面ではお母さんがじっくりしていればいい。じっくりしていない鬱の状態ですら3年間一緒にいると子どもの発達にマイナスの影響がある。2歳くらいの子に大人が教えるのと他の子どもがやっているのを真似するのでは脳の作りが変わってくる。自ら探求して子どもたちは会得していくので、そうなる家庭より園の方が良い環境の場合もある。

<委員>

- ・ 多くのお母さんと接する中では、一緒に遊ぶ子どもがいなくなったので保育園に預けたいと考える方が多い印象を受ける。今は色々なサービスもあり、お金だけの問題ではないと思うが、使えるサービスがあるなら使わなければ損と考える方も増えているのではないか。

<委員>

- ・ 父親の育児休暇の取得は増えているが、取得期間がどれくらいかわかるのか。知り合いで3週間取得したという人がいるが、1年であっても3週間でも取得だと、中身の割合は重要ではないか。

→ アンケートでは、「取得した」「取得中」「取得していない」「就労していない」からの回答となっており、取得期間まではわからない。(事務局)

<委員>

- ・ 男性で育休を1年取得すると居場所がなくなってしまう。

<委員>

- ・ アンケートの「松本市は子育てしやすいまちだと思うか」に対し、「そう思う」「ややそう思う」が年々減っているのが残念。

<委員>

- ・ 男性の育児休暇は学校現場でもできれば取りたいと考える人は結構いるが、その間の給料の減額やキャリアが止まってしまう。また、育休の内容を見ると、母親のサポート的な意味合いが強く、父親が主体

となる育休システムにしていかないといけない。現在の職場で、育休取得を予定している男性職員がいるので応援していきたい。

<委員>

- ・ 年々児童館の迎えもお父さんが増えてきていると感じている。話を聞くと迎えだけでなく、家事もやっているようで、「今日のご飯はなに？」と子どもたちと会話をしている。男性の意識も少しずつ変わってきていると感じる。

<委員>

- ・ 施設の老朽化や児童が増えている中で、利用している人がどんなことを望んでいるのか意見を聞いて欲しい。

<委員>

- ・ 不登校児童が増えていることに対し、同じ保護者としては心配。今、不登校は悪いことではないと認識されているが、自分の子どもがもし不登校になったらとても心配に思う。また相談先について小学校の保護者だと半数が「相談先がない」と回答しており、学校の先生と連携して相談できる関係性を築けたらと思う。

<委員>

- ・ 県外出身者で実家が不便なところのため、子育てすべてを松本市でやった。義理の父母も助けてはくれるが、頼みづらい雰囲気もあった。また、夫が自営業のため育休取得の考えもなかった。

1人目の出産のあと鬱っぽくなったが、頼るところを自分で探さなければならず、なんとか近所の方と仲良くなりそこで知り合った方に、プラザの情報を聞きそこで友だちがたくさんできた。

<委員>

- ・ これまでの意見では、相談機能の充実が多く聞かれた。とりあえず何でも相談ができ、そこでちょっと考えてもらえるような場所があるといいかなと思いました。